

第1回 総合計画策定委員会
令和4年度(2022年度)第1回 まち・ひと・しごと創生推進委員会 議事要旨

■日 時：令和4年(2022年)8月10日(水) 15:05~16:22

■場 所：オンライン(高層棟4階特別会議室)

■出席

委員長：春藤副市長、副委員長：辰谷副市長

委員：前田水道事業管理者、中野危機管理監、大矢根理事(庁舎改修担当)、今峰行政経営部長
岡松理事(情報化推進担当)、中川税務部長、高田市民部長、服部理事(人権政策担当)
北澤児童部長、岸上理事(家庭児童相談担当)、大山福祉部長、前村理事(生活福祉担当)
保木本理事(福祉指導監査担当)、梅森健康医療部長、岡健康医療審議監、柴田保健所長
道澤環境部長、清水都市計画部長、伊藤理事(公共施設整備担当)、船木土木部長
真壁理事(地域整備担当)、柳瀬下水道部長、杉会計管理者
廣田消防本部理事(大規模特異災害担当)、山村水道部長、山下学校教育部長、大江教育監
道場地域教育部長

事務局：企画財政室 伊藤室長、吉川参事、吉村参事、森岡主幹、清家主査、山本(香)主任

■欠席

西川教育長、小西総務部長、井田都市魅力部長、笹野消防長

■議事

1. 開会
2. 案件

【報告】

- (1) 第4次総合計画見直しの基本方針及び同計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の体制及びスケジュール(資料1・資料2・資料3)
- (2) 本日の会議の到達点(資料4)
- (3) 人口等実績値及び今後の推計(資料5)
- (4) 進捗状況報告
 - ア 第4次総合計画(資料6)
 - イ まち・ひと・しごと創生総合戦略(資料7-1・7-2)
 - ウ 中核市移行基本計画(資料8)
- (5) 社会情勢(資料9)

【議題】

- (1) 第4次総合計画見直しに向けた庁内照会(資料10-1・10-2)
- (2) 第4次総合計画見直しに向けた市民参画手法(資料11)

3. その他

■配布資料

議事次第

- | | |
|-----|--|
| 資料1 | 総合計画策定委員会設置要領、まち・ひと・しごと創生推進委員会設置要領及び名簿 |
| 資料2 | 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定体制等 |
| 資料3 | 吹田市第4次総合計画中間見直しの基本方針について(令和4年3月25日政策会議資料) |
| 資料4 | 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール
・本日の到達点 |

- 資料 5 第 4 次総合計画中間見直しに係る人口推計について
- 資料 6 第 4 次総合計画進捗状況報告（R2 まで）
- 資料 7-1 まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告（R2 まで）
- 資料 7-2 まち・ひと・しごと創生総合戦略令和 3 年度（2021 年度）実績報告
- 資料 8 中核市移行基本計画進捗状況報告（組織・人員・財政編）
- 資料 9 市を取り巻く社会情勢の主な変化
- 資料 10-1 第 4 次総合計画中間振り返りシート
- 資料 10-2 第 4 次総合計画中間振り返りシート記入要領
- 資料 11 第 4 次総合計画見直しに向けた市民参画手法

1. 開会

委員長：

第 4 次総合計画が策定されてから 3 年が経過し、現在、令和 6 年度からの計画後半に向けて中間見直しの検討を始めているところである。また、平成 27 年度から計画期間を延長して対応してきたまち・ひと・しごと創生総合戦略も第 4 次総合計画の中間見直しに合わせて第 2 期の策定を行っていく。4 次総計の策定後、中核市移行やコロナ禍等、様々な社会情勢の変化があった。これらを踏まえて今後の見直しの内容や進め方について検討していくため、皆様から積極的な御意見をいただくようお願いしたい。

2. 案件

【報告】（1）～（5）（資料 1～9）

事務局：（資料説明）

委員長：

資料の 5 から 9 については今後の見直しに向けて参考となるよう作成したものである。報告（2）～（5）について御意見・御質問をお願いしたい。

水道事業管理者：

資料 6 で令和 2 年度までの評価がなされているが、評価 C となっているものについては、コロナの影響による行動制限などで進捗が遅れているというのはそのとおりだと思うが、強化が必要、ということ留めておいてよいのか。

大綱 6 にある自転車通行空間の整備延長という指標がよく分からない。

「判定不能」とはどういうことか。

事務局：

評価 C となっている年間利用者数、イベントへの参加者数等の指標に関しては、コロナ禍がいつまで続くか分からないため、この指標が妥当か、別の指標を設定するのかなど、評価の仕方も含めて見直すことを作業部会など通じて議論いただきたいと考えている。大綱 6 の自転車通行空間の整備延長については、コロナ禍の影響というよりは計画どおりに進んでいないということで評価 C となっている。目標が高過ぎるため達成できていないのかなど見直し作業の中で検討が必要だと考える。「判定不能」に

については、一部、2年・3年・5年に1回の調査を指標としているものがあり、判定時点では調査未実施のため判定不能となっているものや調査結果の判明が遅れていて評価ができないため判定不能となっている。

福祉部長：

資料8で中核市移行基本計画の進捗状況をまとめているが、人員体制や財政的影響額の数値について、ホームページに出ている令和2年1月時点の修正数値に置き換わっておらず計画策定時の数値のままになっているのはどういう理由か。

事務局：

内容を確認して差し替え等必要である場合は資料の再配付など対応する。

学校教育部長：

資料7-1、まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について、2ページの総括で市民の定住意向の高まりとあるが、補足の説明が要るのではないか。また資料4に「団塊ジュニア世代の死亡率の高まり」とあるが、これは言い切ってもいいものか。

事務局：

資料4については、枠内に端的にという理由で言い切った書き方となっているが、団塊ジュニア世代が後期高齢者に入ってくる中でそういった傾向も人口構造に徐々に影響してくるという意味でそのような内容となった。今後も審議会等でこの資料を使っていく上でより分かりやすい表現を検討していきたい。また資料7-1については、基本目標の達成状況の中で、市民の定住意向が、策定時で57.8%、令和2年実績が61.7%と目標値の60%以上を超えていることからそのように記載しているが、もう少し言葉を補うような説明も検討していきたい。

【議題】(1) 第4次総合計画見直しに向けた庁内照会（資料10-1, 10-2）

事務局：(資料説明)

環境部長：

今後、施策指標を変えていく必要があると思うが、資料10-2の2ページに施策のタイトルは原則見直さないとある。指標を見直すに当たって指標と合致しない場合はタイトルの見直しは可能か。現行の柱の枠組みをできるだけ超えないようにということか。また、SDGsをどう位置付けるのかについては今後の見直し会議の中で議論されていくのか。

事務局：

施策体系は原則見直さないという前提で、名称も見直さないとしている。目標値に対する達成状況を見ていただき、施策の中で代替して実施する取組を検討いただき、施策指標に位置付けていただきたいという意図がある。施策の枠を飛び越えての新たな指標を設けることは事務局としては想定していない。策定後、保健所等、情勢の大きな変化に伴い、新たな施策の立案が必要となったものに関してはそれに

伴う指標の検討が必要だと思うが、既存施策の中でうまくいっていないものについては、施策の枠組内でどうするかを検討してもらいたい。また SDGs について今回の見直しでどう反映させるか、事務局としても課題として捉えている。SDGs に精通した方に審議会委員に入ってもらおう予定をしており、知見を参考にどう見直しに反映していくかを積極的に検討していきたいと考えている。

委員長：

ここまでの議論の中で施策指標に関する意見が多数出ているため、私の見解も述べておく。施策指標については、施策の進捗状況を反映するものなのか、進捗確認できるものなのかという妥当性が大事だと考える。頑張れば達成できる指標でなければ意味がない。評価の悪い指標ばかりを問題にしがちだが、既に達成した指標についても残りの計画期間で何もしないというわけではなく、達成した指標は新たな指標に変えるべきだと考える。限られた時間の中で総合計画は策定されており、挙げられている指標が現時点でベストな指標かどうか、達成が現実的に難しいと思われる指標も含めて柔軟に見直ししていくことが誠実であるとは私は考える。

【議題】(2) 第4次総合計画見直しに向けた市民参画手法 (資料11)

事務局：(資料説明)

行政経営部長：

事務局サイド的なお願いとなるが2点ある。各分野、個別計画の中で聞いている市民意見もなるべく反映していきたいと考えているが、4次総計策定以降に策定・改定された個別計画があるかと思う。基本的に総計と個別計画は整合が取れていると思うが、最新の情勢を踏まえて取組内容や指標、KPIなどが変わっているかと思う。中間見直しのタイミングで個別計画の最新の情報を総合計画に反映するということもあるのではないかと思う。進捗確認の際にもいくつも同じような指標を追う必要がなくなるため、個別計画と総合計画の様々な整合について、個別計画を持っている部署についてはぜひお願いしたい。また、今回は前回お願いしたような各部内の検討体制について具体的なお願いはしていないが、今回示した資料や情報の共有、議論については時間を設けて行ってほしい。各大綱、施策の進捗状況を部内で情報共有し認識していただいた上で、作業部会に臨むことをお願いしたい。

委員長：

これだけの分量の資料をこの時間で消化して意見や質問をするのは難しいかと思うし後で気付くこともあるかと思う。よい計画にしていきたいので、気付いた点があれば委員会終了後でも企画財政室の担当参事などに気軽に言ってきてほしい。

【総括】

副委員長：

総合計画あつてのまち・ひと・しごと創生総合戦略であると私も考えるため、2つの委員会を同時に行う今回の形は素晴らしいと思う。この取組は続けてほしい。また、総合計画は指標で評価されていくものだが、5年経った時点で「判定不能」というのは指標の役割を果たせていないため問題なのではな

いか。指標の中にはこちらが頑張ってもどうにもならない指標もあるため、今回の見直しを機会にぜひ施策に即した内容にしてもらいたい。自転車通行空間の整備延長については、警察協議で議論が続いているようではないため、実現できるようにと伝えたが、指標として残すべきかどうかは議論していただきたいと思う。市民意見募集の中にある2050すいたストーリーについては、大学連携の体制も整っているため大学と連携も検討しながらお願いしたい。

委員長：

3次総計では33万人まで人口が減っている推計だったが、現時点で吹田市は社会増が自然減を上回っているから人口増になっている。合計特殊出生率は高いわけではない。国循環地や南吹田の住宅開発もあるので、そう簡単に人口減とはならず、やるべきことをやれば40万に近づくこともあると考える。ただし、危機感を持って人口減を推計として見込み、施策を充実させることはよいと思う。

指標については、指標としての題材がないのはよく分かるが、この施策を実施したことで市民が充実したと感じられるかという市民目線は忘れてはいけない。今の吹田市の情勢は決して悪くない。30代や未就学など若い世代の人口が増えており、これは継続し強めていく必要がある。社会増減、入れ替わりが多いこと、また開発に伴いある地区では人口が増えるが一方で減っている地区もあるまだら現象が起こっている。これらの吹田市の特性を見据えて施策を考えていかなければならない。保健所についてもコロナ禍を経て、市民からの様々な要望があったかと思うが、大阪府との連携も見据えつつ、どこまで独自性を発揮するかも考えてほしい。目標については定性と定量の両面があり、定量は分かりやすいが意識を問う場合は定性になるのも致し方ない。市が色々頑張っても、市民アンケートで現れるかは分からないが、市としてやるべきことはやった、と分かるような施策指標やそれに基づく事業を充実させていただけたらと思う。

3. その他

事務局：

次回の会議日程は9月末ごろを予定している。日程は確定次第案内する。また福祉部長より御意見をいただいた中核市移行基本計画の資料の内容については確認し回答させていただきたいと思う。